

ポリオ・プラス委員会
委員長 神谷一博



(1) 日本でのポリオ発症関係

世界では 1988 年（30 年前）のころ、125 か国で年間 35 万人のお子さんがポリオを発症していたと推定されています。日本でも 1960 年（58 年前）「東京オリンピックは 1964 年でした」に北海道を中心に 5,000 人以上の患者が発生する大流行がありました。翌 1961 年 1,300 万人分の経口生ワクチンを緊急輸入し、全国一斉にお子さんにポリオワクチンを投与しました。これによって日本では、急速に流行を終息させる事に成功しました。これが日本で成功した、世界最初の NID（全国免疫接種日）です。

その後日本では 1980 年（38 年前）に 1 型ポリオの症例を最後に、野生型ポリオウイルスによるポリオ麻痺症例は見られていないと言
うことです。「出典；益田 R/C ポリオの撲滅について、国立感染症
情報センターHP」より。 現在 65 才前後の方は当時ご両親が顔色
を変えていた事を思い出すのではないのでしょうか。ポリオは一度発
症いたしますと、現代の医学ではこの麻痺症例は治すことが出来ま

せん。生涯続く悲惨な病気です。ただ発症を防ぐ方法が一つだけあります、それが「ポリオワクチン」です。ワクチンを投与された5歳以下のお子さんは生涯麻痺を発症しないと言われていています。

(2) 40ドル/人/年 寄付のお願い

今まで、ロータリーとそのパートナー団体は、これまで世界で25億人以上の子供にワクチンを投与する活動を行ってきました。しかし、世界からポリオを根絶しない限り、今後10年以内に、世界での年間発症数は20万件に上ると予想されています。現在ポリオの常在国はわずか3か国ですが。ポリオの発症がどこかで起きている限り、感染の危険は世界中のお子さんに及ぶこととなります。

引き続きポリオが根絶するまでワクチン投与の手を緩めるわけにはいきません。この場をお借りいたしまして、国際ロータリー第2780地区に於いては、お一人年間40ドル（約4,400円）の使途指定寄付金をおねがいたします。

③ 現在の世界のポリオ症例

[野生株によるポリオ症例数]

ポリオ	国	2016	2017	2018	2019	2020	2021/1/1~3/23
常在国	パキスタン	20	8	12	147	84	1
	アフガニスタン	17	14	21	29	56	1
世界合計		37	22	33	176	140	2

2510地区HPより

パキスタン、アフガニスタンは紛争国なものでワクチンが行き渡らない残念な地域です。

④ 国際ロータリー第2780地区のポリオ根絶の取り組み

私ども国際ロータリー第780地区では皆様よくご存じのように公共イメージ委員会並びに各クラブ毎にポリオキャンペーンを7~8年前から行っており多大なる成果を上げております。ポリオキャンペーンと相まって2014年5月には相澤光春団長（当時ガバナー）の下、第一回「第2780地区ポリオ根絶行動グループ」を結成し、ポリオの発症をゼロになるまで尽力されたインド・ポリオプラス委員会のマネージャーである Lakesh Gupta 氏（デリー南西 RC）の協力の下、現地を訪れ現地視察を行っています。その後2020/1/18まで7回に渡り延べ70名近くの国際ロータリー第2780地区のロータリアンがインドに行き現地の NID（National Immunization Days）に参加しています。



⑤ 次年度 ポリオ・プラス委員会の活動内容

- 1、 2021/10/24「世界ポリオデー実行委員会」との連携と共にガバナー補佐のポリオ・プラスキャンペーン（募金活動を含む）活動への協力
- 2、 年間のポリオ・プラスキャンペーンを公共イメージ委員会と情報を連携しながら对外発信並びに関連グッズ類の管理をいしていきます。
- 3、 2022/3/20～21 地区大会 ホストクラブ実行委員会とポリオ・プラス関連の行事の連携を図ります。
- 4、 「ポリオ・プラス」の啓蒙活動。各クラブ単位への活動、ガ

バナー補佐経由にて（40ドルの意義など）ポリオ根絶のための活動を積極的に支援していきます。

- 5、 1～4項目ともに、「ロータリーの友地区代表」との連携を視野にいれて行動をしていきます。

ロータリアンの皆様のご寄付が役立てられていることへのご理解と引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。」

詳しくは研修資料をご覧ください。